

CBAP[®]合格体験記（v3 日本語 CBT 試験）

株式会社日立製作所 末藤 徹

※2025年1月時点

はじめに

CBAP[®]受験にあたり、IIBA[®]日本支部の合格体験記が大変参考になりました。ビジネスアナリシスが注目されてきている状況であるとはいえ、プロジェクトマネジメント資格である PMP[®]と比較すると、まだまだ認知度も低く、情報も少ないのが現状かと思います。私の経験が少しでも、今後受験される方々のお役に立てればと思い、本体験記を寄稿いたします。

受験の動機

私は現在、SE として、システム開発業務に従事しています。業務ではプロジェクトマネジメントに携わることが多いですが、上流工程に関しては自身で対応しています。上流工程ではビジネスアナリシスの手法を使用するものの、これまでは組織で行われてきたやり方をただ実行したり、必要な対応を必要な都度実施したりと、ビジネスアナリシスを意識して実施しているという感覚ではありませんでした。効率の悪さを漠然と感じているなか、偶然 IIBA[®]のサイトを見つけ、BABOK[®]および CBAP[®]の存在を知り、ビジネスアナリシスを体系的に学習したいと思ったのが受験のきっかけでした。

受験までのスケジュール

2024年11月下旬～12月上旬

- ・CBAP[®]受験対策講座（E-PROJECT）受講

2024年12月中旬

- ・受験申請（監査にかかったため対応を実施※1）

2024年12月下旬～2025年1月下旬

- ・受験勉強

2025年1月26日

- ・受験（大阪駅前テストセンター(PSI) / 合格）

※1：受験申請してすぐに、「IIBA - Your CBAP Application has been selected for an Audit」というタイトルのメールを受信しました。内容は、professional development を立証するためのドキュメントを添付して返信するように、ということと、Work History を立証するために2名のリファレンスにメールでコンタクトを取る、というものでした。受験講座の開催元である E-PROJECT からは、受験申請の方法を記した資料も頂いており、監査対応についても記載されていたのでそれに基づき対応しました。具体的には、受信後すぐに CBAP[®]受験対策講座の修了証を IIBA へ送付するとともに、受験申請時に記載した2名のリファレンスに対して、IIBA の監査者からメールが来る旨を連絡しました。しかし、修了証送付後まもなく、IIBA から監査を承認するという内容のメールを受信し、結局2名のリファレンスには IIBA からメールは送られてきませんでした。そのメールを受信した日に監査を通過し、受験申請が承認されました。

勉強時間および勉強方法

CBAP[®]受験対策講座の受講中はモチベーションも高く、11/27に受講を開始し、12/4に受講を終了するまで平均して1日に3時間ほど勉強しました。その後はモチベーションが落ちてしまい、あまり勉強をしていませんでしたが、試験の1週間前からは流石に焦りを感じて勉強を再開し、試験直前の3日間は、1日に5時間ほど勉強し追い込みをかけました。CBAP[®]受験対策講座の受講を含め、トータルで50~60時間ほど勉強したと思います。私の場合、実務経験から大半の知識エリアとそのタスクについて比較的容易にイメージすることができたので、このくらいの勉強時間で合格できたものと思っております。慣れない知識エリアが多い場合は、もう少し勉強時間を確保した方が良いと思います。

勉強方法としては、CBAP[®]受験対策講座の講義を聴きながら、BABOK[®]の関連する箇所を読みました。また、講座の模擬問題を解いて、正解したものも間違えたものも、その解説をしっかりと読み、なぜその解答が正しいのかを腹落ちするまで考えました。講座の模擬問題については、全て9割以上の正答率が取れるまで実施し、試験直前の3日間も、模擬問題を解く→解説を確認する→BABOK[®]を確認する、ということを繰り返しました。また、6個の知識エリアとそのタスク30個、およびタスクのインプットとアウトプットは覚えました。私の場合、タスクまでは完全に覚えていましたが、インプットとアウトプットは曖昧なところがあったため、試験ではそれが原因で落としてしまった問題もあると思います。その他、BABOK[®]は、8章のソリューション評価までは一度精読して、9章の基礎コンピテンシー以降は流し読みしました。(ただ、試験の最初の約40問で出題される事例問題では、テクニックの図表に関する問題も出題されるので、10章のテクニックはきちんと読んでおけば良かったと思います。)

以上が私の実施した勉強方法です。試験を受けた感想としては、よく言われている通り、CBAP[®]試験においてはBABOK[®]の理解が何よりも重要であり、知識エリアやタスクなどを暗記しただけでは合格できない試験だと感じました。試験まで十分に時間がある方は、BABOK[®]を何度も通読して理解することも一つの方法と思いますが、個人的には、何度も通読するよりも通読は1回程度とし、受験講座の模擬問題を何度も回して、その都度BABOK[®]の関連する部分を読み込む方が効率的であり、十分合格も可能だと感じています。

(知識エリア、タスク、インプット、アウトプットの暗記は必須) もちろん、受験講座の模擬問題がそのまま出題されるわけではありませんが、重要なのはBABOK[®]の理解であるため、模擬問題を解く→解説を確認する→BABOK[®]を確認するというプロセスを繰り返すことで、試験合格に必要な理解度を身につけることができると考えます。

試験画面の構成

田川佳織様の合格体験記と同様、下記の構成であり、使い方に戸惑うことはありませんでした。

ヘッダー : 「前へ」「次へ」「テスト終了」「電卓」ボタン、タイマー表示

設問エリア : 設問、選択肢、「フラグ」「解答」ボタン

フッター : 問題番号のインジケータ (クリックして任意の問題番号へ遷移可能)

試験について

(1) 試験問題について

問題数は120問です。最初の約40問は、図表を含んだ長めの文章の事例問題です。40問全てが別の事例というわけではなく、ひとつの事例に対して3~5個くらいの設問があります。残りの約80問は知識問題です。私の理解度の場合、120問のうち、80問くらいはある程度自身を持って回答できる問題、30問くらいは2択まで絞り込めてどちらか迷う問題、残りの10問くらいはどれが正しいのか全く分からない、またはどれを選んでも正しいのではないかと思えるような問題でした。計算問題は多くなく、5問程度だったように思います。計算問題は比較的簡単なので、模擬試験などで計算方法を理解し、確実に正解できるようにしておくべきだと思います。また、事例問題については、事例の内容を詳細に理解する必要はないと感じました。事例を一生懸命理解するのではなく、事例を一通り読んだうえで設問を見て、必要に応じて事例を読み込むという形で対応するのが時間的にも良いと思います。

(2) 試験時間について

試験時間は3.5時間です。私の場合、120問を回答した時点で残り時間が約40分でした。急いで問題を解いたわけでもなく、1問あたり2分くらいかけたものも幾つもあります。残り時間で、フラグを付けていた問題の見直しや、全体の確認を実施しました。

(3) 試験結果について

「テスト終了」ボタンを押すと、確認画面が出た後で即座に合否判定されます。試験中は常に不安で再試験も覚悟していましたが、どうにか合格することができました。大きく合格と表示されるわけではなく、連絡事項のように「合格をお伝えします」といった形で記載されていたので、合格したのかどうか少しの間分かりませんでした。

試験後にIIBAからお祝いとテスト結果のサマリ（知識エリアごとの達成状況）が送られてきました。参考に、私のテスト結果を以下に示しますが、知識エリアごとに合格の最小スコアに対してどの程度のレベルだったか、という形式で送られるため、最小スコアが何点か、自分が何点取れたかを知ることはできません。

- # Business Analysis Planning and Monitoring - Higher
- # Elicitation and Collaboration - Comparable
- # Requirements Life Cycle Management - Comparable
- # Strategy Analysis - Higher
- # Requirements Analysis and Design Definition - Comparable
- # Solution Evaluation - Higher

さいごに

個人的には、勉強に対するモチベーションを維持することが大変でした。今になって思えば、受験講座を修了したあとすぐに受験申請を行ったことは正解だったと思います。長時間勉強して暗記すれば合格するという試験でもないため、短期間で試験に臨めたことが良かったと思っています。試験中は、問題の多さや抽象的な表現などに戸惑うこともあり、本当に合格できるのか不安でしたが、試験結果を見て合格したことが分かった時は、やはり単純にとっても嬉しかったです。これまで、自己流で実施していたビジネスアナリシスを体系的に学習できたことで、何のために行うのか、どのような手法を使うのが効果的かということが明確になり、これからは自信を持って業務に取り組めるのではないかと考えています。引き続き BABOK[®]の理解や業務での実践など、自己研鑽を続けていく必要はありますが、他者に対しても BABOK[®]の考え方を広めるなどの普及活動にも参加していきたいと思っています。

2025 年 1 月 27 日

未藤 徹